

企業紹介

Voice of Customer (お客様の声) を
確実に捉えて、競争力強化を

ENDO
遠藤工業 株式会社

代表取締役 遠藤 光緑
〒959-1261 燕市秋葉町3-14-7
TEL(0256)62-5131 FAX(0256)62-5772
http://www.endo-kogyo.co.jp

業 種：機械製造業
資 本 金：6,000万円
事業内容：荷役機器、環境機械、給電機器、産業機械
ほか

“ぜんまい”を使った荷役機器「スプリングバランサー」、あるいは環境機械である「破碎機」等々。燕市にある遠藤工業では、独自の技術を活かし、幅広い分野で各種機械・機器を製造する。それぞれの製品市場は「ウルトラニッチ」の分野であり、なかでもスプリングバランサーは圧倒的な国内シェアを誇る。常に顧客のニーズを探り、技術の応用によるきめ細やかな対応が好評である。

時代に合わせた転機を経て

1935年、同社のスタートは金属洋食器の製造であった。しかしその後は、時代の流れとともに、機械産業へと転換を図る。そして1952年、ある自動車メーカーから、現在同社の主力製品である「スプリングバランサー」の開発を依頼されたことが、ひとつの転機となった。この開発の過程で、現在同社の製品に欠かせない「ぜんまい」を使った技術が確立されたのだ。しかし、それは転機のひとつに過ぎない。「いつが転機かと言われれば、全部転機だった」と話す同社遠藤社長。「当時は、その場その場で変えていただけであったが、今振り返ると時代に合わせて変えてきていたようだ」。

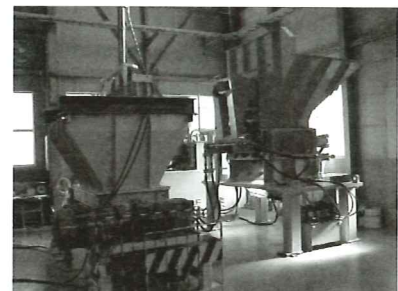


▲同社工場ラインで使われる「スプリングバランサー」

同社が手掛けるウルトラニッチの市場

同社の手掛ける製品は幅広い。主なものとしては、まず、荷役機器である「スプリングバランサー」があげられる。スプリングバランサーには、同社が保有する「ぜんまい」の技術が用いられており、工場のラインなどで重い工具類を安全に吊り下げ、ぜんまいでバランスをとって重量を調整することで、手で軽く操作ができる。同機器の利用により、生産効率が格段にアップするという。また、最近では、環境への意識の高まりもあり、「破碎機」の需要も多い。ペットボトルやビデオテープなどのプラスチック類、紙類、樹木類、金属類など、用途に合わせてカスタマイズされた破碎機を製造する。顧客志向のきめ細やかな対応が、好評である。

それぞれの製品市場は、「ウルトラニッチ」の分野であり、なかでもスプリングバランサーは圧倒的な国内シェアを誇る。また、アジアなど海外にも、製品を多く輸出している。



▲プラスチック類などが破碎できる「二軸破碎機」

自らアンテナを張って、ニーズの開拓を

2008年、同社ではマーケティング推進室を設置した。「商売はマーケティングが大事。どのような商品が売れるのか、作っていかなければならないのか。Voice of Customer (VOC：お客様の声) を確実にキャッチしたい」と遠藤社長。「待っているだけではダメ。常にアンテナを張って、誰よりも早く、そして自らニーズを開拓しなければいけない。今は厳しい時代だが、逆に今ほど新しい市場が開ける時代もないだろう」と、意欲的な遠藤社長が印象的である。



▲「自らニーズを開拓することが重要」と同社遠藤社長